

dBTechnologies

ES 1203

3-アンプ コラムPAステレオシステム

取扱説明書







 entertainment
system
1203



 Bluetooth®







安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的 (年 1 回くらい) に電源 プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源 コードが破損したら (芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (20cm 以上) 離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災/感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検/修理は販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
 指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 禁止	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 注意	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
本書の表記.....	4
別売りアクセサリ.....	5
アフターサービス.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
設置上の注意.....	5
商標および著作権に関して.....	5
ユーザー登録について.....	5
電波について.....	6
本機の使用上の注意事項.....	6
通信コンディション.....	6
通信セキュリティ.....	6
Bluetooth® 機能について.....	6
プロファイル.....	6
コーデック.....	6
コンテンツ保護.....	6
本機の概要.....	7
各部の名称.....	8
コントロールパネル.....	8
電源パネル.....	8
設置方法.....	9
サテライトスピーカーの組み立て/取り外し (シングルコラムモード).....	9
スタンドポールの組み立て/取り付け.....	9
シングルコラムモード(スタンドポール1本).....	10
ステレオモード (ES 1203×2をシングルコラムモードで使用).....	10
ダブルコラムモード (ES 1203×2をシングルコラムモードで使用).....	11
入力信号(音源)の接続.....	11
出力信号の接続.....	12
電源の接続.....	12
壁掛け設置.....	12
運搬用カバーを使う.....	13
ホーム画面/クイックコントロール/ミキサー.....	13
ホーム画面.....	13
クイックコントロール.....	14
ミキサー.....	16
拡張メニュー.....	17
NEW SYSTEM SETTING.....	18
SYSTEM EQUALIZATION.....	19
SAVE/RECALL MENU.....	19
OPTIONS.....	20
F/Wアップデート (USB Burner Managerソフトウェア).....	21
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	21
トラブルシューティング.....	21
仕様.....	22
一般.....	22
寸法図.....	22

はじめに

このたびは、dBTechnologiesの3-アンプ コラムPAステレオシステム ES 1203をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書(日本語)は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

[<https://tascam.jp/jp/>]

- 最新版の取扱説明書(英語)については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、“ES”の項目を選択して、上段“Manuals”の列から対象となるPDF ファイルをダウンロードしてください。

[<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>]

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- サテライトスピーカー..... ×2
- サブウーファー..... ×1
- 35mm径スピーカースタンドポール(M20ネジ式)..... ×1
(分離型。片側が伸縮式で、固定用ピンおよび蝶ネジ付き)
- サテライトスピーカー接続ケーブル(ステレオ用 7m)..... ×2
- サテライトスピーカー接続ケーブル(モノラル用 2.5m)..... ×1
- ケーブル用クリップ..... ×4
- 運搬用カバー A..... ×1
(サテライトスピーカー 2個、各ケーブル収納用)
- 運搬用カバー B..... ×1
(サブウーファー、スタンドポール収納用)
- 電源コード..... ×1
- 取扱説明書(本書、保証書付き)..... ×1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン/端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”を使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

別売りアクセサリ

輸送や本体保護のために、下記の別売りアクセサリがご使用になれます。

- D0-ES212 (運搬用トローリー)
- D0-ES 1203 (デザインポール)
- WB-44 (壁掛けブラケット)
- SK36 TT (スピーカースタンド)
- SSB2 (スピーカースタンド)

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付(巻末に記載)されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店/ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック 修理 センター(巻末に記載)が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック 修理 センター(巻末に記載)にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック 修理 センター(巻末に記載)までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (ES 1203)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1~2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本機の動作保証温度は、摂氏-5度~50度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック 株式会社の登録商標です。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、AEB Industriale SRL はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商号は、それぞれの所有者に帰属します。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ユーザー登録について

dBTechnologies の下記 ウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<http://www.dbtechnologies.com/en/support/register.aspx>

電波について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証技術基準適合証明を受けています。

したがって、本機を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと



本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数帯(2.4GHz帯)では、電子レンジなどの産業/科学/医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)、ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- 使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定の小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに場所を変更するか、または電波の発射を停止したうえ、タスカム カスタマーサポート(巻末に記載)にご連絡いただき、混信回避のための処置についてご相談ください。
- その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りの場合は、タスカム カスタマーサポート(巻末に記載)へお問い合わせください。

通信コンディション

- 本機のBluetooth® 通信出力クラスは、Class2です。
- 見通し通信距離は10m程度ですが、障害物や電波状況によって距離は変動します。
- 本機とBluetooth® 技術搭載機器との間に障害物がある場合、Bluetooth® 通信に悪影響が出る場合があります。
この場合は、障害物を除去してください。
- また、使用環境内で無線LAN(IEEE802.11b/g)や電子レンジが使用されている場合にも、Bluetooth® 通信に悪影響が出る場合があります。
この場合は、これらの機器の使用を中止するか、本機およびBluetooth® 技術搭載機器をこれらの機器から10m以上離してください。

通信セキュリティ

本機は、Bluetooth® 通信でBluetooth® の標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応していますが、通信の秘匿性を保障するものではありません。

Bluetooth® での通信で情報の漏洩が発生しましても、弊社は一切の責任を負いかねます。

Bluetooth® 機能について

本機は、Bluetooth® オーディオレシーバーを搭載しており、Bluetooth® に対応したパソコンやポータブルオーディオ機器(Bluetooth® 技術搭載機器)の再生音声を出力できます。

注意

本機のBluetooth® 機能について、全てのBluetooth® 技術搭載機器との接続や動作を保証するものではありません。

プロファイル

本機は、以下のBluetooth® プロファイルに対応しています。

- A2DP(Advanced Audio Distribution Profile)
Bluetooth® で音声伝送を行うには、Bluetooth® 技術搭載機器がA2DPに対応している必要があります。
ただし、同じプロファイルに対応していても、Bluetooth® 技術搭載機器の仕様により、機能が異なる場合があります。

コーデック

本機は、以下のコーデックに対応しています。

- SBC

使用するコーデックは、Bluetooth® 技術搭載機器のコーデック対応や通信状況に応じて適切に選択します。

メモ

- 使用するコーデックは、ボタン操作などで選択することはできません。
- Bluetooth® 無線技術の特性により、Bluetooth® 技術搭載機器の再生に比べて本機側での再生がわずかに遅れます。

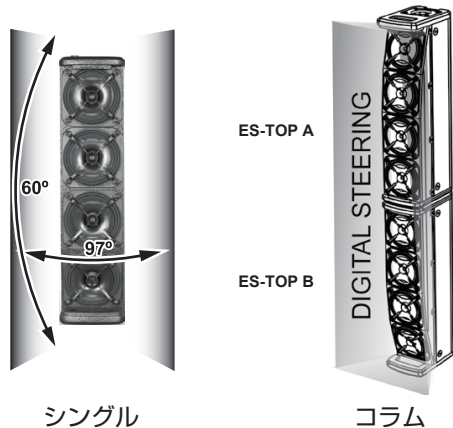
コンテンツ保護

本機は、音声伝送時のコンテンツ保護としてSCMS-Tに対応しており、保護された音声を再生できます。

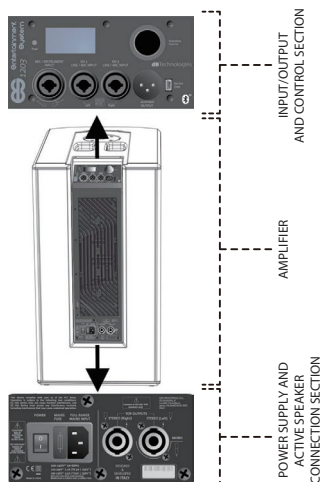
本機の概要

ES 1203は、ESシリーズのフラグシップモデルで、4インチ ミッドウーハーを4個搭載した木製パッシブ型サテライトスピーカー2台と12インチ ウーファーを2個搭載した木製筐体のサブウーファー1台によって構成された3アンプステレオサウンド のです。

- 1つのサテライトスピーカーに、4インチ ミッドウーハーを4個搭載し、フェーズプラグとスピーカー側面に対数曲線を使用した形状を組み合わせて、カバレッジを最適にしています。
 - シングルカバレッジ範囲：垂直方向 [60°]、水平方向 [97°]
 - コラムモードの場合、デジタルステアリング機能を使って、カバレッジを上方向または下方向に調整することができます。



- 運搬が容易でコンパクトなサイズで、高品質な3-アンプ コラム PAステレオシステムです。
- サブウーファーの背面には、屋外でも見やすい有機ELディスプレイを搭載しています。
- 豊富な入力系統(Bluetooth® 接続を含む)や2台目へのスレーブ出力、有機ELディスプレイに表示される設定画面の指示に従うことでスピーカー構成に合わせた設定が簡単に行えます。また、サブウーファーに内蔵されたアンプ部とサテライトスピーカーの接続は、簡単に確実な接続が可能な、専用のケーブルを使うことで、素早い設置が可能です。
- アンプ部は、PFCを採用したクラスDのDigipro G4アンプを搭載し、RMS出力[1200W]の出力が可能です。また、電圧自動切り替え機能を備えたスイッチング電源により、冷却ファンを廃した静かなシステムを実現しています。専用DSPによる様々なパラメーターの制御が可能で、コントロールパネルから設置環境に合わせた設定が行えます。



本機の主な機能

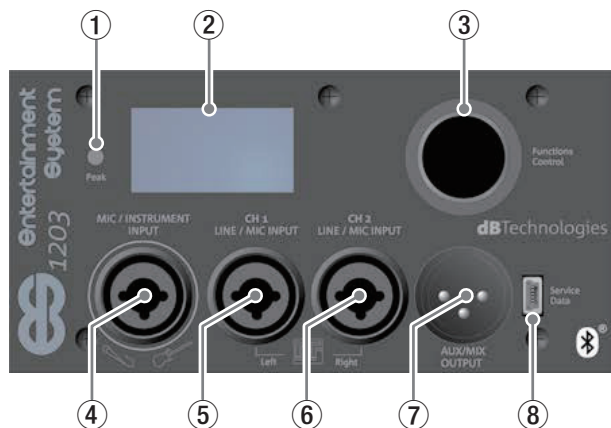
- モノラルやステレオ 構成はもちろん、2つのES 1203を使うことでダブルコラム 構成が可能です。
- ワイドな周波数特性と明瞭な音声の高音質を約束する最適化された音響技術を提供できます。
- 1系統のMIC/INSTRUMENT入力、2系統のLINE/MIC入力(ステレオ構成)、およびBluetooth® 入力を装備しています。
- コンパクトな有機ELディスプレイとプッシュボタン付きロータリーエンコーダーで、全てのシステム設定を行えます。

注意

- スピーカーを濡らさないでください。
- アンプ部は、決して開けないでください。火災/感電や機器が壊れたりする原因となります。
- ケーブルの接続/取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- 適切な換気のために、サブウーファーのリア側のアンプ放熱フィンに塞がないでください。
(オーバーヒートの保護回路が作動した場合は、アンプ部が適正な温度になるまで音量を徐々に下げます。適正な温度になると自動的に元の音量に戻ります。)
- 通電中は、本機正面の保護グリルを外さないでください。感電を防ぐため、保護グリルが損傷した場合や保護グリルを交換する場合、電源コードをすぐに抜いてください。保護グリルが外れた状態では、絶対に電源に接続しないでください。

各部の名称

コントロールパネル

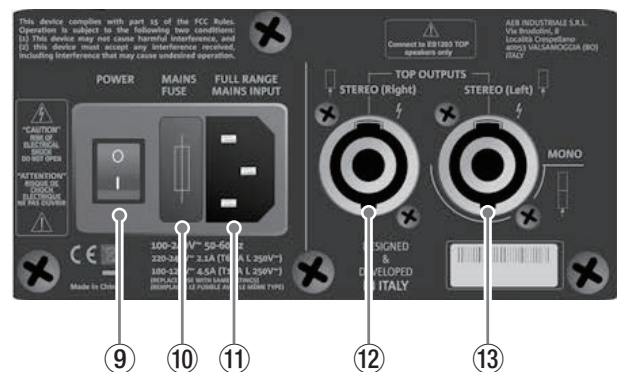


- ① **Peak インジケーター**
アンプ保護回路が作動した場合に点灯します。
- ② **ディスプレイ (有機EL)**
全てのコントロール設定や構成システム設定を表示します。
- ③ **Functions コントロール ダイアル**
プッシュボタン付きロータリーエンコーダー
エンコーダを回してメニュー間を移動し、押すとENTERボタンとして機能します。
- ④ **MIC/INSTRUMENT INPUT**
XLR/TRS コンボジャック 入力端子 (バランス/アンバランス)
マイクや楽器を接続します。
- ⑤ **CH1 LINE/MIC INPUT (Left)**
XLR/TRS コンボジャック 入力端子 (バランス/アンバランス)
マイクやミキサー、オーディオ 機器などを接続します。
モノラル 入力としてだけでなく、**CH2 LINE/MIC 入力**(⑥) と合わせて、1 系統のステレオ 入力の L ch 入力として使用することができます。
- ⑥ **CH2 LINE/MIC INPUT (Right)**
XLR/TRS コンボジャック 入力端子 (バランス/アンバランス)
マイクやミキサー、オーディオ 機器などを接続します。
モノラル 入力としてだけでなく、**CH1 LINE/MIC 入力**(⑤) と合わせて、1 系統のステレオ 入力の R ch 入力として使用することができます。

注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
 - [MIC/INSTRUMENT INPUT(④)]、[CH1/CH2 LINE/MIC INPUT(⑤/⑥)]の詳細設定は、13ページ「ホーム画面/クイックコントロール/ミキサー」または、17ページ「拡張メニュー」を参照してください。
- ⑦ **AUX/MIX OUTPUT**
XLRバランス出力端子です。
本機のモニター用または、別のスピーカー (本機を2台使用してのダブルコラムモードなど)に接続します。
 - ⑧ **Service Data (Mini USB B 端子)**
本機のアップデート時に、このポートを使用します。

電源パネル



- ⑨ **POWER スイッチ**
- ⑩ **MAINS FUSE**
本機は、ヒューズを備えています。
万一、動作しなくなった場合は電源 プラグを抜いてディアック修理 センター (巻末に記載) にご相談ください。
- ⑪ **FULL RANGE MAINS 端子**
AC 電源 端子
付属の電源ケーブルを接続します。
- ⑫ **TOP OUTPUTS (STEREO (Right))**
ステレオモード時に右サテライトスピーカーに接続します。
- ⑬ **TOP OUTPUTS (MONO/STEREO (Left))**
ステレオモード時に左サテライトスピーカーに接続します。
また、シングルコラム (モノラル) もしくはダブルコラムモード時にマスター側のサテライトスピーカーに接続します。

注意

- ⑫、⑬のTOP OUTPUTSには、必ず本機のサテライトスピーカーを接続してください。その際、付属の専用ケーブルをご使用ください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

設置方法

注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。(5 ページの「設置上の注意」も併せてお読みください。)

- 誤った方法で本体のハンドルや取付ネジ穴を使用して、本機器を設置したり、吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。
- 電源を入れる前には、必ず音源側の機器の音量を最小にして下さい。また、電源コードや接続ケーブルが各端子に正しく接続され、緩みやガタ等が無いことを確認してください。

サテライトスピーカーの組み立て/取り外し (シングルコラムモード)

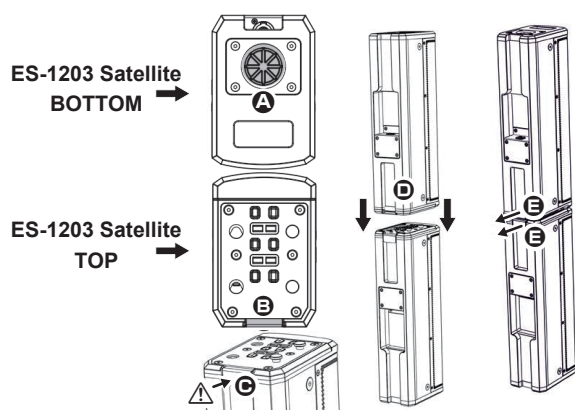
シングルコラムモードでは、サテライトスピーカーを縦に接続してください。

サテライトスピーカーの底面(BOTTOM)には36mm径のネジ穴(A)、天面(TOP)にはロックシステム(リア側にセーフティーレバー(B)を装備)が備わっています。

注意

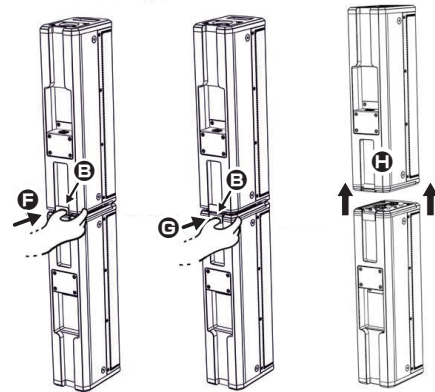
組み立てる前にセーフティーレバーが、内側に押し込まれた状態(C)であることを確認してください。

組み立て



1. 上図(D)を参考に片方のサテライトスピーカーを上下逆さまにしてください。
2. 両スピーカーのロックシステムの位置を合わせて接続(E)してください。
3. 正しく接続されると両スピーカーのセーフティーレバー(B)がカチッと音がして飛び出し、ロックされます。

取り外し



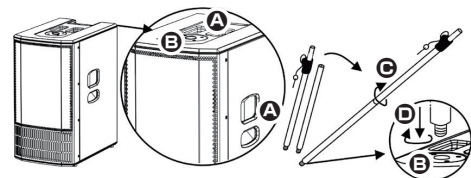
1. 両スピーカーの背面のセーフティーレバー(B)を押し込んでください(F)。
2. 両スピーカーを切り離してください(H)。

スタンドポールの組み立て/取り付け

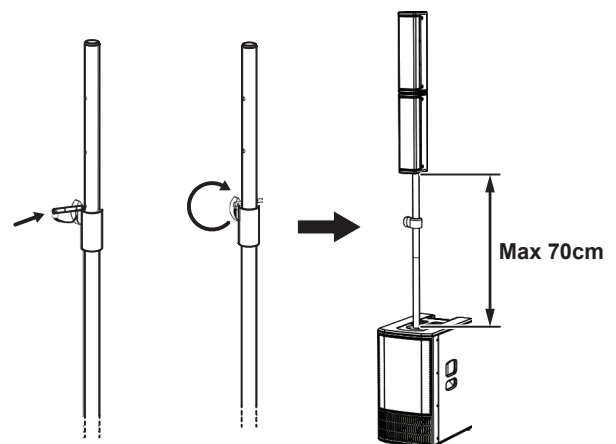
本機のサブウーファーには、天面に1つと両側面に2つで、合計3箇所のハンドル(A)があります。

天面には、サテライトスピーカー用に付属のスタンドポール(伸縮式)を取り付け用のM20のネジ穴(B)があります。

1. スタンドポール上部(伸縮側)を時計回りに回して(C)、ポール下部と接続し、組み立ててください。
2. 組み立てたスタンドポールをサブウーファーのネジ穴(B)に時計回りに回して(D)、取り付けてください。



3. スタンドポールの高さを調節するには、蝶ネジを緩めて希望の高さに合わせた後、固定用ピンを差し込み(E)、再び蝶ネジを締めてください(F)。

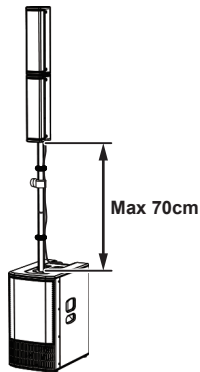


注意

安定した設置のためにスタンドポールの高さは、シングルコラムモードで、サブウーファー上部とサテライトスピーカー下部の距離が最大70cmの範囲でご使用ください。

シングルコラムモード(スタンドポール1本)

2台のサテライトスピーカーどうしを縦に接続し、付属のスタンドポールによって、サブウーファーの上に配置する構成です。全ての入力はモノラルで処理されます。

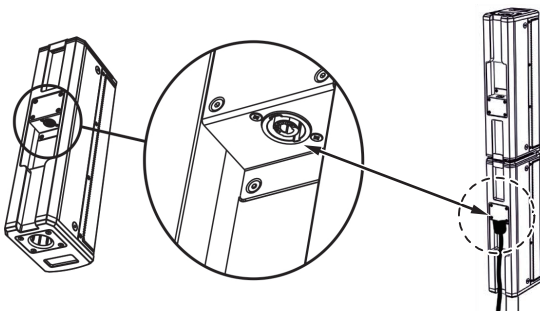


注意

スタンドポールの適正高さ70cmを超える場合は、適切な器具(固定用ストラップ等)を使ってスピーカー全体をしっかりと地面に固定してください。(適切な器具や固定方法は、資格や経験を持った人(専門業者)にご確認ください。)

シングルコラムモードでのスピーカー接続

- 接続には、付属の専用ケーブル(2.5m)を使用します。
- 下図を参考に連結したサテライトスピーカーの下側端子にケーブルを接続してください。



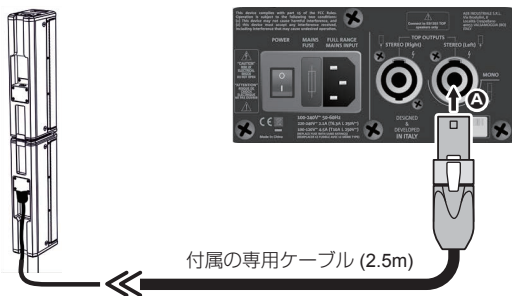
サテライトスピーカー専用ケーブル接続箇所

下側のサテライトスピーカーに専用ケーブル(2.5m)を接続

- サブウーファーのTOP OUTPUTS (MONO/STEREO (Left)) 端子(A) に専用ケーブルを接続してください。

シングルコラムのサテライトスピーカー

サブウーファーのモノラル出力端子



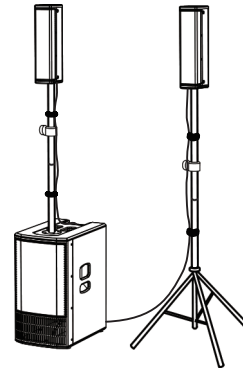
- 付属のケーブルクリップで専用ケーブルをスタンドポールに留めてください。

ステレオモード

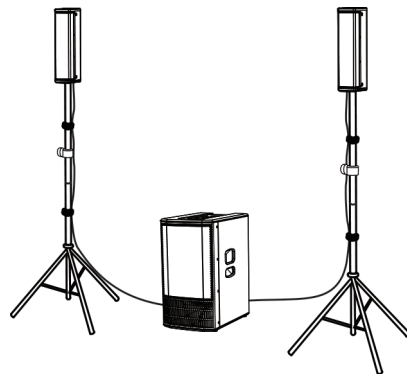
(ES 1203×2をシングルコラムモードで使用)

1つ、または2つのスピーカースタンド(SK36 TTまたはSSB2)*にそれぞれサテライトスピーカーを1台ずつを設置し、付属の専用ケーブルでサブウーファーと接続するステレオモードの構成です。

スタンドポール×1+スピーカースタンド×1



スタンドポール×2



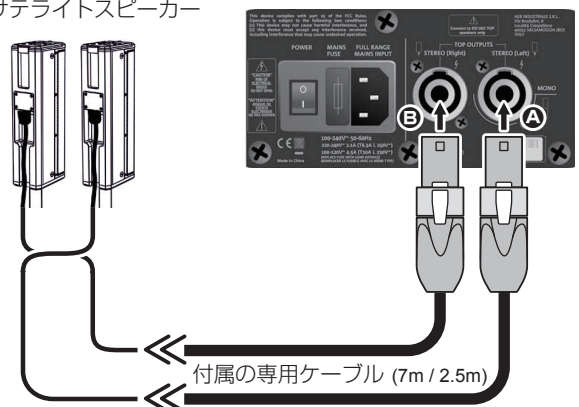
* スピーカースタンド(SK36 TTまたはSSB2)は、別売りになります。

ステレオモードでのスピーカー接続

- 接続には、付属の専用ケーブル(7m、2.5m)を使用します。
- 下図を参考にそれぞれのサテライトスピーカーの下側端子にケーブルを接続してください。
- L-ch側は、サブウーファーのTOP OUTPUTS (MONO/STEREO (Left) 端子))(A) に、R-ch側はTOP OUTPUTS (STEREO (Right) 端子))(B) に接続してください。

ステレオモードのサテライトスピーカー

サブウーファーのステレオ出力端子

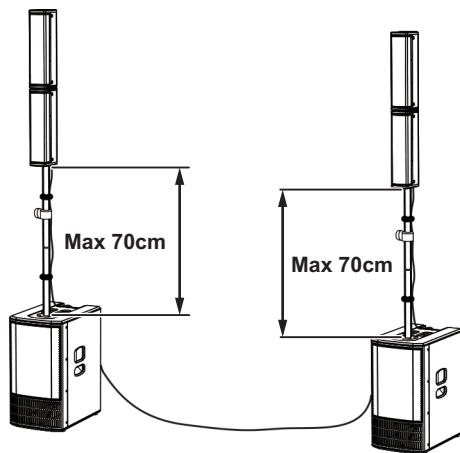


- サブウーファーのモノラル出力端子(A)に専用ケーブルを接続してください。

ダブルコラムモード

(ES 1203×2をシングルコラムモードで使用)

シングルコラムモードで動作する本機を2組使用する構成で、片方をマスター側として、他方をスレーブ側として使用する構成です。

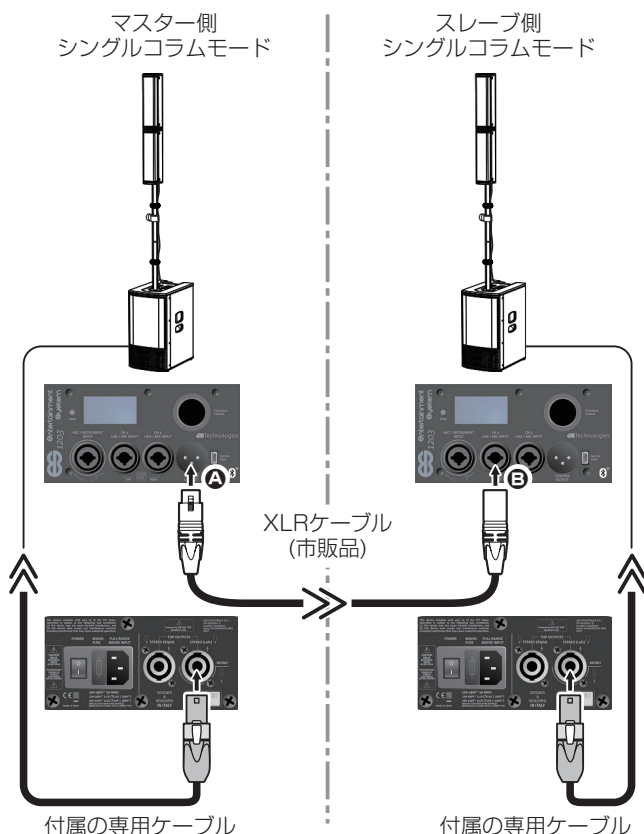


注意

スタンドポールの適正高さ70cmを超える場合は、適切な器具（固定用ストラップ等）を使ってスピーカー全体をしっかりと地面に固定してください。（適切な器具や固定方法は、資格や経験を持った人（専門業者）にご確認ください。）

ダブルコラムモードでのスピーカー接続

- それぞれのサテライトスピーカーとサブウーファーをシングルコラムモードで接続し、音源を入力する本機をマスター側とし、もう片側をスレーブ側とします。
- マスター側のAUX/MIXL OUTPUTS端子(A)と、スレーブ側のCH1 LINE/MIC INPUT (Left)端子(B)を、バランスXLRケーブル(市販品)で接続してください。

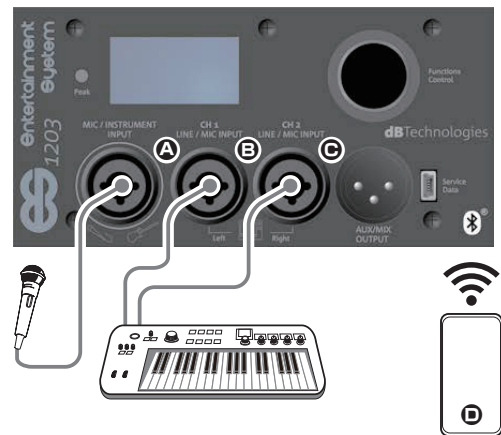


入力信号(音源)の接続

下記に音源の接続方法を例1と例2で示します。

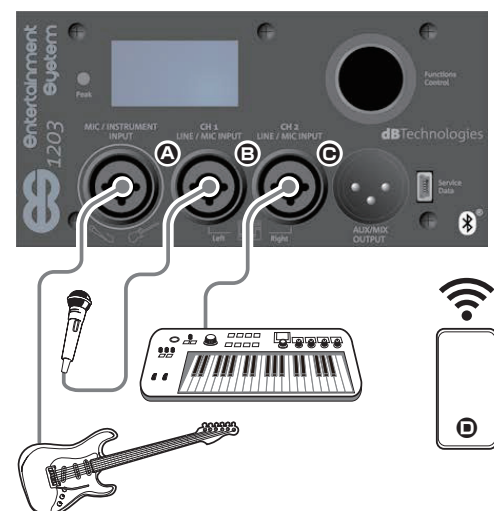
例1

- マイクをMIC/INSTRUMENT INPUT端子(A)に接続してください。
- ステレオ音源となる機器(キーボードやミキサーなど)をCH1 LINE/MIC INPUT (Left)端子(B)とCH2 LINE/MIC INPUT (Right)端子(C)に接続してください。L/Rの音源を間違えないように、注意して接続してください。
- タブレットやPCからBluetooth® 経由(D)で音源を入力することもできます。



例2

- ギターなどの高インピーダンスな音源を入力する際は、MIC/INSTRUMENT INPUT端子(A)に接続してください。
- マイクは、CH1 LINE/MIC INPUT (Left)端子(B)に接続してください。音源となる機器をMONO信号で、CH2 LINE/MIC INPUT (Right)端子(C)に入力してください。
- タブレットやPCからBluetooth® 経由(D)で音源を入力することもできます。



音源の種類(マイク/楽器、またはライン/マイク)や入力レベルを設定するには、13ページの「ホーム画面/クイックコントロール/ミキサー」を参照してください。

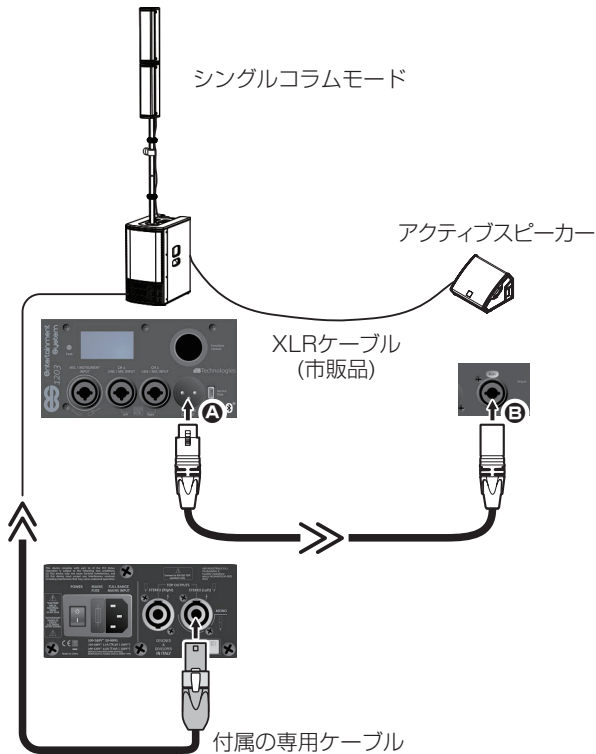
出力信号の接続

AUX出力

他のアクティブスピーカーに信号を出力する場合の接続方法を下記の例で示します。

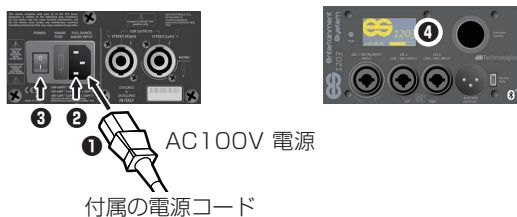
例：サテライトスピーカーとサブウーファーをシングルコラムモードで接続し、サブウーファーのAUX/MIXL OUTPUTS端子(A)と別のアクティブスピーカーのInput端子(B)に接続してください。

出力レベルや各種パラメーターの調整は、13 ページの「ホーム画面/クイックコントロール/ミキサー」を参照してください。



電源の接続

1. 電源コードのコネクタ側(①)をFULL RANGE MAINS端子(②)に接続し、反対側のプラグをコンセントに差し込んでください。差し込んだコネクタ側とプラグ側に緩みやガタが無いことを確認して、POWERスイッチ(③)をオンにしてください。
2. 有機ELディスプレイ(④)が点灯します。
3. ファームウェアやユーザー設定を読み込むのに数秒かかります。現在のファームウェアバージョンが、有機ELディスプレイ(④)に表示され、読み込み状況がバーグラフで表示されます。

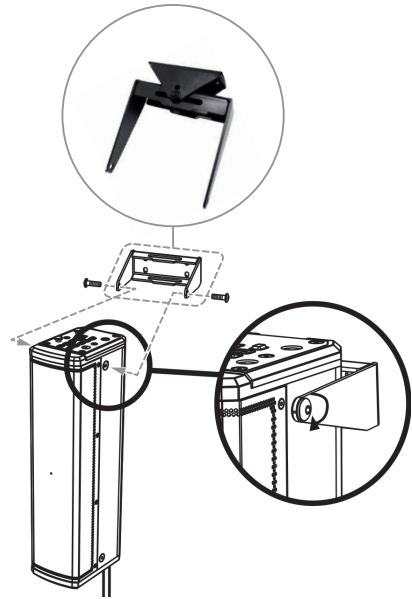


注意

電源を入れる前には、必ず音源側の機器の音量を最小にしてください。

壁掛け設置

シングルコラムモード、ステレオモード、ダブルコラムモードのいずれかの構成時、別売りの壁掛けブラケットWB-44を使ってサテライトスピーカーを壁に取り付けることができます。



注意

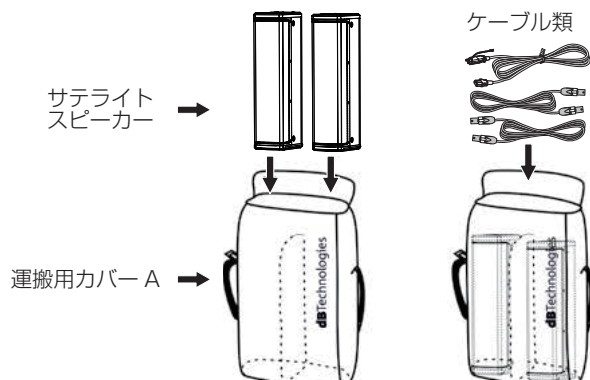
- 誤った方法で本体のハンドルや取付ネジ穴を使用して、本機器を設置したり、吊るさないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 適切な器具や固定方法は、資格や経験を持った人(専門業者)にご確認ください。

取り付け方法の詳細は、21 ページの「アクセサリの取扱説明書ダウンロード先」からWB-44の取扱説明書をダウンロードしてください。

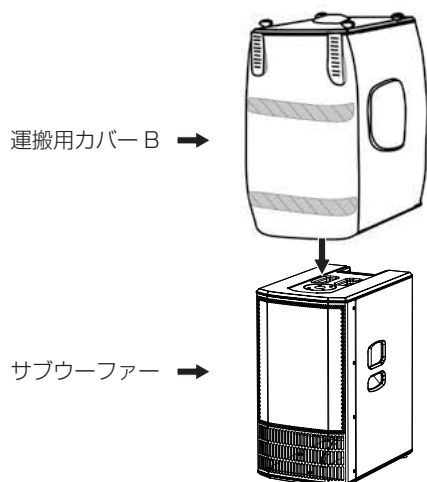
運搬用カバーを使う

本機には、運搬用カバー A/B が付属しています。

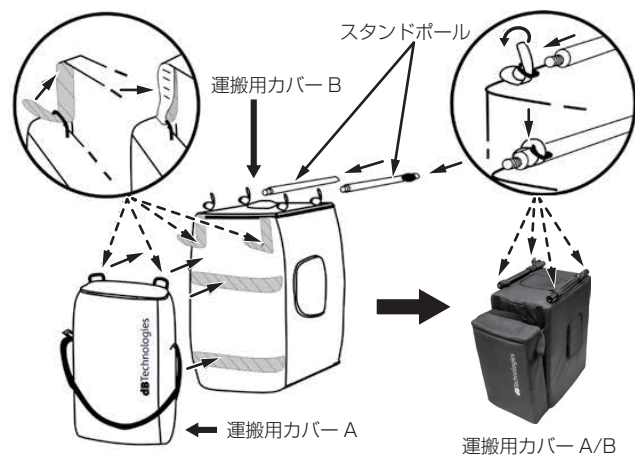
- 小さい運搬用カバー A には、2つのサテライトスピーカーとケーブル類を収納してください。



- 大きい運搬用カバー B には、サブウーファーとスタンドポールが収納できます。(サブウーファーの上から被せるようにして、収納してください。)



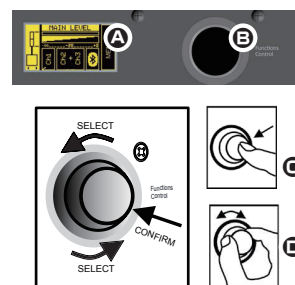
- 運搬用カバー A/B は、1つにまとめることができます。大きい運搬用カバー B の背面に、2つの面ファスナーバンドがありますので、小さい運搬用カバー A のリングに通して留めてください。
- 分離したスタンドポールを大きい運搬用カバー B 上面の4箇所のリングに通して、ストラップで固定してください。



ホーム画面/クイックコントロール/ミキサー

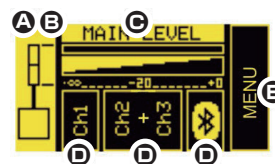
本機は、様々なパラメーター設定をコントロールパネルの有機ELディスプレイ (A) と Functions コントロールダイヤル (B) (以下、Functions ダイヤル) を使って、確認や設定を行うことができます。Functions ダイヤル (C) を押すことで選択した項目を決定します。長押しすることで他の画面にジャンプ(ショートカット機能)することもできます。

Functions ダイヤル (D) を回すことで画面を切り替えたり、選択したパラメーターを変更することができます。



ホーム画面

有機ELディスプレイ上のホーム画面では、以下の操作が行えます。

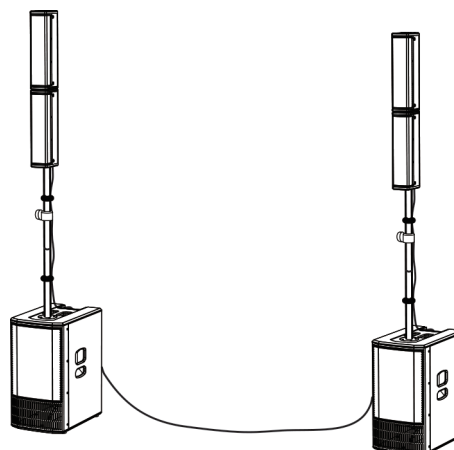


- A スピーカーモードの設定 (システムダイアグラム)
- B デジタルステアリング(カバレッジ角度)の設定
- C 音量の設定 (マスターボリューム)
- D 信号入力設定画面の表示
- E 拡張メニューの表示 (17ページ「拡張メニュー」を参照)

ヒント

ダブルコラムステレオモードの場合(下図参照)、2組の本機 (L/R-ch) は、マスター側もしくはスレーブ側と識別しますので、必ず1つのマスター機、1つのスレーブ機が必要です。

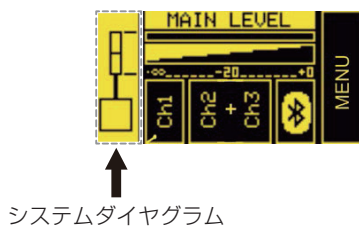
マスター側の本機には、音源を接続して、全ての設定/調整を行ってください。スレーブ側もそれに従って動作します。(スレーブ側で設定/調整を行うことは、できません。)



クイックコントロール

操作手順

1. **Functions** ダイアルを使ってホーム画面のシステムダイヤグラムから、適切な構成を選択してください。(下図参照)



本機のモードを以下の項目から選ぶことができます。

- モノラル
 - ステレオ
 - デュアルコラムステレオマスター L (ML)
 - デュアルコラムステレオスレーブ L (SL)
 - デュアルコラムステレオマスター R (MR)
 - デュアルコラムステレオスレーブ R (SR)
2. システムダイヤグラムで、モノラルモードかデュアルコラムステレオモードか選択/確定した後、サテライトスピーカーのデジタルステアリングを以下の項目から設定することができます。

[デジタルステアリングによるカバレッジ方向]

- UP (上方向に変化)
- FAR (角度変化なし)
- DOWN (下方向に変化)

3. **Functions** ダイアルをもう一度押すと、選択されている項目を確認することができます。(下図参照)

ヒント

- モードを選択中、システムダイヤグラムの下に左右の矢印が表示されます。(下図 A)
- デジタルステアリングの選択中、システムダイヤグラムの下に上下の矢印が表示されます。(下図 B)

[スピーカーモードの選択]

[デジタルステアリングの選択]



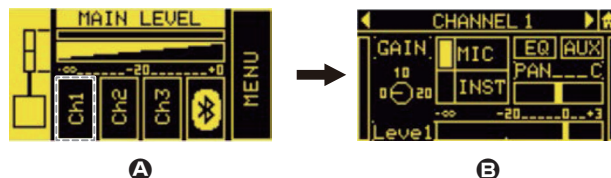
4. 本機全体の音量は、MAIN LEVEL (下図参照)で調整できます。



5. 以下の"目的の信号入力"を選択(例として[Ch1 (A)])すると、サブ画面(B)が表示されます。(サブ画面は、それぞれの[Ch]および[Bluetooth®]にあります。)

目的の信号入力名

- Ch1
- Ch2
- Ch3
- Bluetooth®



ヒント

- Ch2 / Ch3は、1系統のステレオチャンネル入力 (L+R)に設定されています。
- サブ画面の入力タイプの設定から、2系統のモノラル入力に変更することができます。

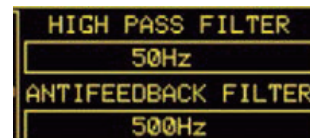
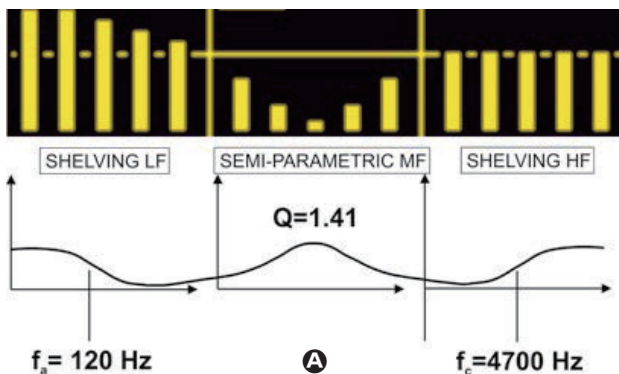
Ch1/ Ch2/ Ch3 の各入力 パラメーター表

名称	パラメーター	レンジ
GAIN	入力ゲイン	0, 10, 20 dB
LEVEL	出力レベル (外部ミキサーへの出力)	-∞~3dB
TYPE	入力の種類	CH1 : MIC/INST - CH2 CH3 : MIC/LINE
EQ	マイク、楽器、ライン入力に適用可能なフィルター	(次の表を参照)
AUX	外部出力ミキサー (ダブルコラム構成時は、設定不可)	-∞~3dB (入出力AUXミキサーの章を参照)
PAN	パン効果 (モノラル構成時は設定不可)	L~R

EQサブメニューのフィルター選択表 (下図 A、B、C 参照)

入力	フィルタータイプ	レンジ
MIC	ハイパス (HP) アンチフィードバック	ハイパス : 50~200Hz アンチフィードバック : 500~12,000Hz
INSTRUMENT/LINE	LF : シェルビング MF : セミ・パラメトリック HF : シェルビング	LF/HF : -6~4dB MF : -6~4dB 150~4,000Hz (中央周波数)

INSTRUMENT/ LINE FILTER



B



C

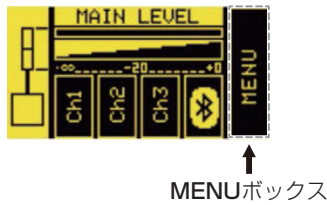
Bluetooth®ステレオ入力のサブ画面の項目表(下図 D 参照)

入力	フィルタータイプ	レンジ
ON/OFF	Bluetooth® 機能のオン/オフ	ON/OFF
LEVEL	出力レベル(内部ミキサー部へのレベル)	-∞~3dB
OPTION	ゲイン (入力ゲイン)	0~15dB
	名称 (Bluetooth® 機器の名称)	英数16文字以内
	パスワード (Bluetooth® 機器のパスワード)	4桁の数字
AUX	外部出力ミキサー (ダブルコラム構成時は設定不可)	-∞~3dB (入力/AUXミキサーのパラグラフを参照)

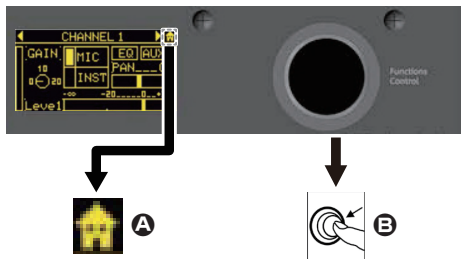


D

6. MENUボックスを選択(下図参照)して、**拡張MENU**を表示させることができます。(17ページ「**拡張メニュー**」を参照)



7. サブ画面からホーム画面に戻るには、画面上のホームアイコン(下図 **A**)を選択するか、**Functions ダイヤル**を長押し(ショートカット機能)してください。(下図 **B**)



ミキサー

INPUTS/OUTPUTS/AUXの各ミキサー設定

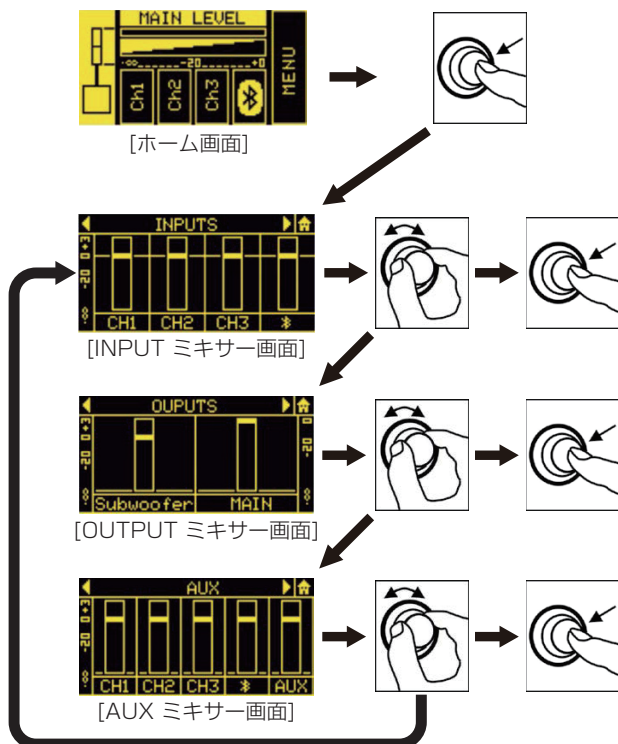
ミキサー設定には、下記の3種類があります。

- **INPUTS**ミキサー / **OUTPUTS**ミキサー / **AUX**ミキサー

ホーム画面から**Functions ダイヤル**を長押しすると、ミキサー設定画面(外部バス)に移動します。

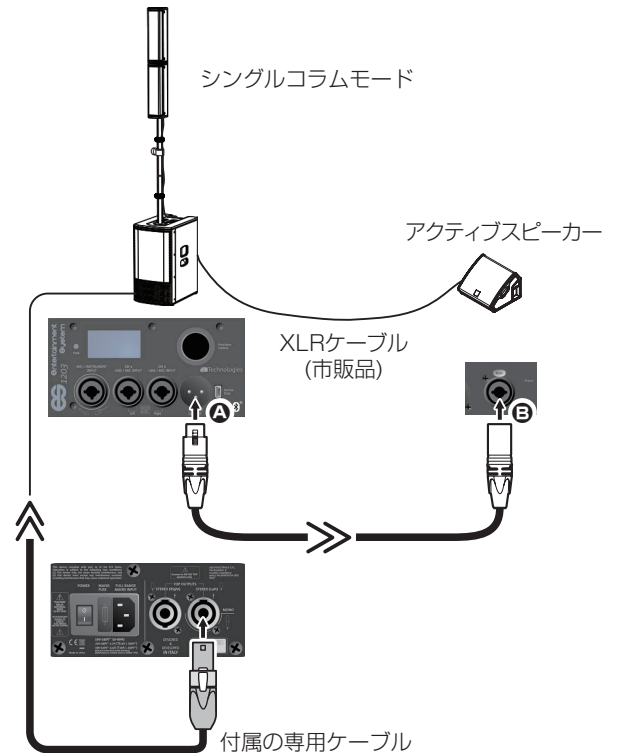
ミキサーの設定は、それぞれの**INPUTS/OUTPUTS/AUX** ミキサー設定画面で、**Functions ダイヤル**を押してください。

(下図参照)



- **INPUTS**のミキサー設定画面には、[CH1/CH2/CH3/Bluetooth®] のレベルが表示されます。
- **OUTPUTS**のミキサー設定画面には、サブウーファー部とメイン部(スピーカーシステム全体)のレベルをそれぞれ表示します。
- **AUX**のミキサー設定画面には、ミキサーの外部バスとして機能するチャンネルのレベルを表示します。

さらに、他のアクティブスピーカーをモニター接続する場合は、下図で示すように、ES 1203の**AUX/MIXL OUTPUTS**端子(**A**)にAUX出力にアサインすることで、モニタースピーカー用の出力信号にすることができます。



この場合、**INPUTS**ミキサーを使って4つのソースをミックスしてES 1203に入力し、そのうち2つを独立したAUXレベルに調整してモニタースピーカー用に出力することができます。

ヒント

ダブルコラムステレオ時は、スレブ側からの設定が行えません。必ず、マスター側の設定からパラメーターを設定してください。

拡張メニュー

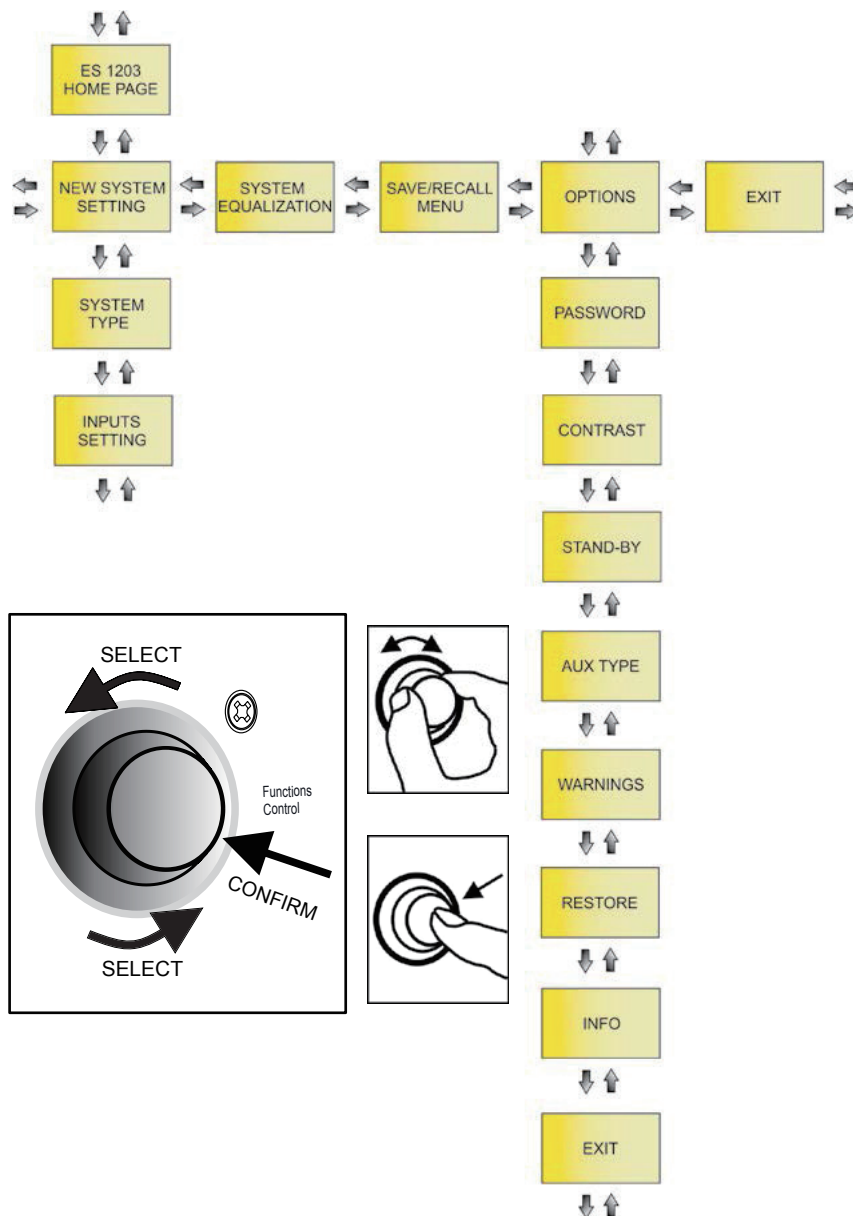
ホーム画面のメニューからES 1203の各種パラメーターを細かく設定することができます。

拡張メニューのメイン画面は、下記の4種類があります。

- NEW SYSTEM SETTING
- SYSTEM EQUALIZATION
- SAVE/RECALL MENU
- OPTIONS

NEW SYSTEM SETTINGとOPTIONSは、一度アクセスすると、それ以外の設定のサブ画面にアクセスできるようになります。
(サブ画面は、選択されたメイン構成によって異なります。)

Functionsダイヤルを使って、下図を参考にサブ画面で選択/確認を行ってください。

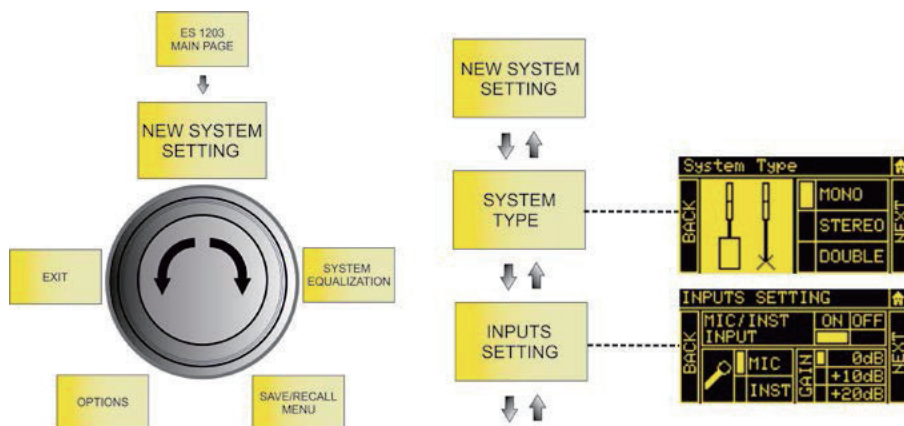


NEW SYSTEM SETTING

このサブ画面は、下表に表示されたパラメーターを使って、簡単にシステム設定を行うことができます。

		システムタイプ	ステアリング	入力設定			
MONO	MONO		UP	CH1, CH2, CH3	ON/OFF		
			FAR		TYPE	MIC/INST (CH1)	
			DOWN			MIC/LINE /L+R (CH2, Ch3)	
				Bluetooth®	GAIN (0, +10, +20) dB		
STEREO	STEREO		-	CH1, CH2, CH3	ON/OFF		
					TYPE	MIC/IINST (CH1)	
						MIC/LINE/L+R (CH2, CH3)	
					GAIN (0, +10, +20) dB		
				Bluetooth®	ON/OFF		
DOUBLE (MASTER)	DOUBLE	ML	UP	CH1, CH2, CH3	ON/OFF		
			FAR		TYPE	MIC/INST (CH1)	
			DOWN			MIC/LINE/L+R (CH2, CH3)	
DOUBLE (SLAVE)		MR	SL	UP	-	GAIN (0, +10, +20) DB	
				FAR			ON/OFF
				DOWN			
DOUBLE (SLAVE)	SR	SR	UP				
			FAR				
			DOWN				

Functions ダイヤルを使って、下図を参考にNEW SYSTEM SETTINGの選択/設定/確認を行ってください。

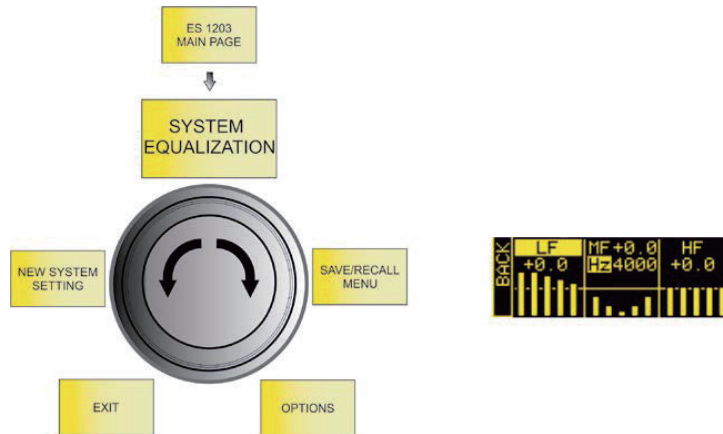


SYSTEM EQUALIZATION

システム出力信号に適用可能なフィルターの設定

フィルターの種類	設定範囲
LF : シェルビング	-6~4dB
MF : セミ・パラメトリック	-6~4dB (150~4,000Hz (中央周波数帯))
HF : シェルビング	-6~4dB

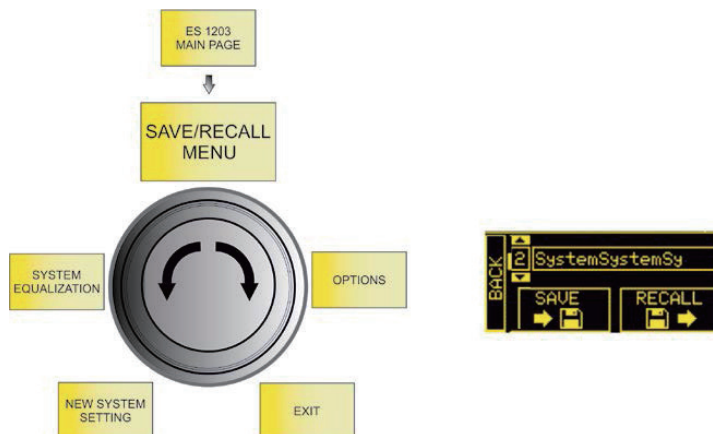
Functions **ダイヤル**を使って、下図を参考に**SYSTEM EQUALIZATION**の選択/設定/確認を行ってください。



SAVE/RECALL MENU

1. SAVEを選択してシステム設定を保存します。
2. システム設定に名前をつけます。
3. RECALLを選択して保存したシステム設定を読み込みます。

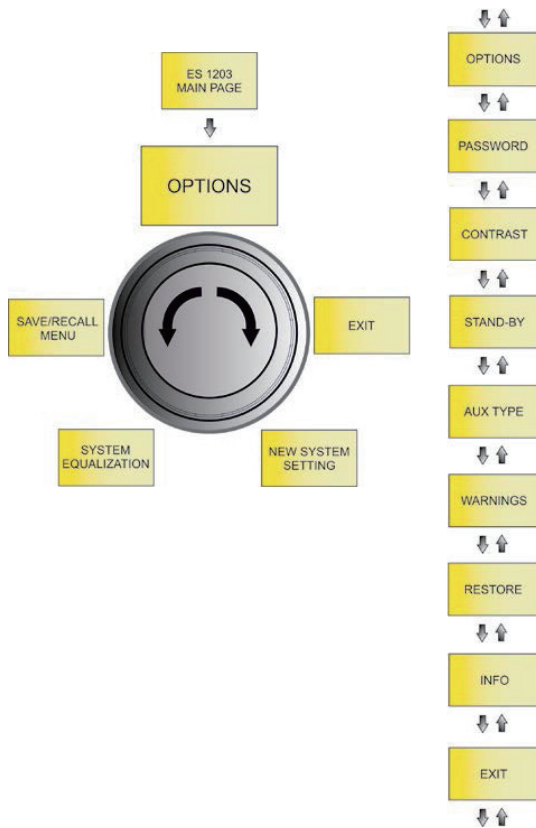
Functions **ダイヤル**を使って、下図を参考に**SAVE/RECALL MENU**の選択/設定/確認を行ってください。



OPTIONS

各種の設定が行えます。

Functions **ダイヤル**を使って、下図を参考に**OPTIONS**選択/設定/確認を行ってください。



AUX TYPE

ミキサーとして機能し、AUX出力信号のフェーダー連動/非連動を表示します。

- PRE：ミキサー処理前の信号をAUX信号として出力します。
ES 1203を個別のモニタースピーカーに出力する場合に最適で、ミキサー設定の影響を受けません。
- POST：ミキサー処理後の信号をAUX信号として出力します。

WARNING

システムからの警告を表示します。

RESTORE

工場出荷時の設定に戻します。

INFO

FWバージョンを表示します。

EXIT

OPTIONSの設定を終了します。

パスワード設定

1. パスワードを設定し、システムを3段階のレベルで保護することができます。
 - レベル1：音量の操作が可能です。
(プリセットの読み込みは可能ですが、保存はできません。)
 - レベル2：音量のみを操作可能です。
 - レベル3：いかなるシステム設定も変更できません
2. パスワードを入力してください。
 - 6桁のパスワードを設定できます。

ヒント

ユーザー設定したパスワードを忘れた場合は、以下のスーパーパスワードで復帰できます。

[Q2R5D9]

CONTRAST

有機ELディスプレイのコントラストを調整します。

- 5%刻みで、[0～100%]の範囲内で設定可能

STANDBY

1. 使用中に**有機ELディスプレイ**を常時点灯か自動消灯させるかを選択できます。
2. 自動消灯する場合、自動消灯するまでの時間を設定できます。
 - 10秒間隔で、[10秒後～10分後]に設定可能

F/Wアップデート (USB Burner Managerソフトウェア)

常に最新のバージョンでご使用いただけるよう、ユーザーによる本機のF/Wアップグレードが可能です。

簡単にF/Wアップデートができる専用プログラムを無料で使用でき、dBTechnologiesのウェブサイト(www.dbtechnologies.comのSoftware & Controllerページ)より、USB Burner Managerソフトウェアをダウンロードできます。

以下の手順に従って、ダウンロードおよびインストールを行ってください。

1. 最新のF/Wをダウンロードしてください。
2. USB Burner Managerソフトウェアを立ち上げてください。
3. お使いのPCと本機をUSBケーブルで接続してください。
4. 右上のメニューから"File Opening..."を選択してください。
5. 手順1.でダウンロードしたF/Wを選択してください。
6. "Update"をクリックしてください。

メモ

USB Burner Managerは、本機のアップデートを実行後、問題なくアップデートが行われたかチェックします。

注意

F/Wアップデートにより、保存されたプリセットが失われる場合があります。

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"Installation"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となるアクセサリーのPDFファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

電源を入れてもディスプレイが点灯しない

- 電源ケーブルが、確実にACインレットに挿入され、本機の電源スイッチがONになっているかご確認ください。
- 主電源が、供給されているかご確認ください。
- OPTIONSの設定で、STANDBY設定が無効になっていないか確認してください。

ディスプレイは点灯するが、音が出ない

- オーディオ入力(L/R)にケーブルが、しっかり挿さっているかご確認ください。
- 音源側(ミキサー、キーボード、CDプレーヤーなど)の信号が、正しく出力されているかご確認ください。
- 入力レベルや入力ソース、出力レベルが適切な値かご確認ください。
- 各接続ケーブルに、損傷がないかご確認ください。
- 本機の専用ケーブルが、サテライトスピーカーとサブウーファーに、しっかり挿さっているかご確認ください。挿入後、右に回してロックすることで電気的な接続を行います。

音が歪んでいる

- 接続した音源側の機器(ミキサーなど)のLED表示を確認して、常に赤く点灯していないかご確認ください。必要に応じて音源側の出力レベルを調整してください。
- 入力レベルや入力ソース、出力レベルが適切な値かご確認ください。
- 本機に接続した音源側のケーブルをご確認ください。ケーブルに損傷がある場合は、交換してください。

注意

- 電気回路を濡らさないこと。
- 適切な換気のために、サブウーファーを壁に密着させたり布で覆ったりしないこと。
- 適切な入力信号レベルで使用すること。
- 音を歪ませないこと。
- グラウンドループを避けること。

仕様

形式

3アンプスピーカーシステム (モノラル/ステレオ)

スピーカーユニット

周波数特性

-10dB : 35~20,000Hz

-6dB : 41~18,000Hz

最大SLP : 121dB

サテライトスピーカー

MF-HF ミッドウーファー : 4インチ ×4/個

MF-HF ボイスコイル : 25mm

サブウーファー

LF ウーファー : 12インチ ×2

LF ボイスコイル : 64mm

クロスオーバー周波数 : 160Hz (24dB/Oct)

指向性 : 垂直非対称

カバレッジ (シングルトップ) : 67° ×60°

アンプ部

形式 : Digipro G4 クラスD

RMS出力 : 1,200W

DSP

コントローラー : DSP 28/56bit

AD/DA処理 : 24bit/48kHz

リミッター : ピーク、RMS、サーマル

操作部

有機ELディスプレイ、プッシュボタン付きエンコーダー

入出力

入力

XLR/TRS兼用端子 (MIC/INSTRUMENT) ×1

XLR/TRS兼用端子 (MIC/LINE) ×2

内蔵入力 : Bluetooth® ×1

出力 : XLR ×1

一般

電源

AC 100~240V(自動切替式)、50/60Hz

AC インレット

注意

日本国内においては、AC100Vのみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

2.2A (100~120V時) *1

4.5A (100~120V時) *2

消費電力

26W *3

*1 : 通常の使用状況で、1/8の場合の消費電力(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)

*2 : 通常の使用状況で、出力が1/3の場合の消費電力(音楽再生中にクリッピングが頻繁に発生する状態)

設置時やツアー時は、*2の値を参照にして電源容量を計算してください。

*3 : 電源オンで入力信号がない時

インラッシュ電流

9.15A (230V~)

外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き、突起部を含む)

サテライトスピーカー : 110×460×160mm

サブウーファー : 360×680×545mm

質量

スピーカー : 3.3kg/個

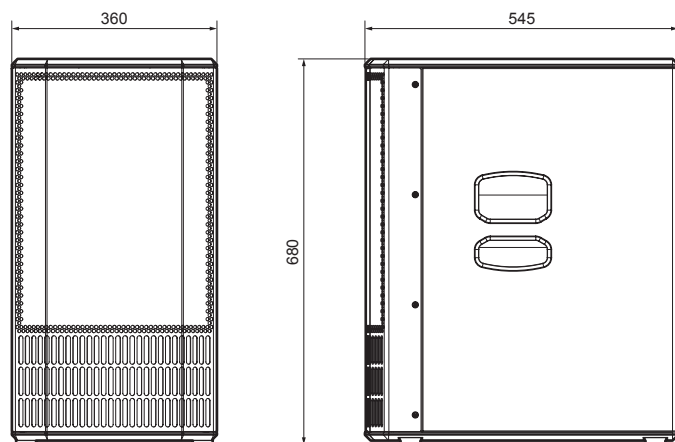
サブウーファー : 29.3kg

動作温度

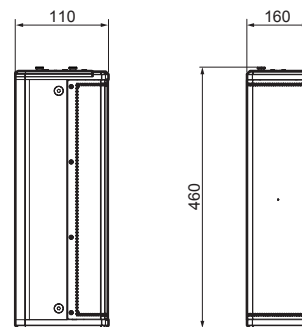
-10 ~ +50℃

寸法図

サブウーファー部



スピーカー部



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



無料修理規定(持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
(1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(2)お買い上げ後の輸送/移動/落下などによる故障および損傷
(3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
(4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
(5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

*この保証書は、本書に明示した期間/条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障/修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

保証書

品名	dBTechnologies ES 1203
および 形名	
機番	
保証期間	本

お買い上げ日	年 月 日
お客様	お名前
	ご住所

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	
	電話 ()

見本

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきます。ご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

0218 MA-2516A